



山添 和良 議員
(無党派)



一般質問

■万葉の里活用について

万葉の里を活用した取り組みを！

質問

自治体としての知名度を上げるチャンスととらえ万葉の里を活用した取り組みを、行政として自らがどう取り組むか。行政としていかに支援するか。①市長が万葉人に扮し和倉万葉の里マラソンのスタートの号砲を鳴らしてはどうか。②芸能人の菜々緒さんをふるさと大使に再委嘱しマラソンに万葉人として参加してもらってはどうか。③マラソンとは別に万葉の里を生かすビジョンはあるか。

答弁

①昨年2018大会においては、能登立国1300年、そして万葉の里マラソンの10回大会を記念し、市長の号砲後、和倉温泉おかみの会とわくたまくんが、ランナーのスタートを見送り、大会に花を添えたが、来年の大会は令和最初の大会であることから、組織委員会と協議したい。②七尾ふるさと大使は、小室等さんと加藤登紀子さんの2名の芸能人の方に無報酬で活動していただいているが、タレントの菜々緒さんについては、マルチタレントとして人気が高く、大変お忙しいことから、難しいと考える。③大伴家持が詠んだ歌や万葉集の歌など、歌碑が市内各所に多く建立されており、万葉から現在までの歌碑、句碑を紹介したリーフレットを活用して、七尾の魅力を発信していきたい。

【その他の質問項目】

- 平和の取り組みについて
- 老人クラブ支援について

■放射線副読本について

一般質問

■電子行政の推進について

電子行政の推進について

質問

①職員の人件費抑制と労働時間削減のため定期的業務を人工知能で自動処理化する試みを遂行してはどうか。②人口が減少しても快適に暮らせるために、IoTをあらゆるサービスに取り入れてはどうか。③住民情報システムの市単独によるクラウド化の計画について、費用対効果の検証などの進捗は。④高度な個人認証を行えるブロックチェーンを多様な行政サービスに利用し質を向上させてはどうか。

答弁

①本市を含め、他自治体の状況においても、先進的な事例が見受けられず、行政サービス利用者の視点、費用対効果などの観点から、越えるべきハードルは高いものと考えている。②今後のさらなる技術の進歩と、利用者の視点、費用対効果なども考慮すべきところが多く、他自治体の取り組みを見守っていききたい。③計画どおり今年度システム更新時にあわせて実施する。他自治体との共同利用については、連携先の選定をはじめ、システムの運用、帳票類の調達や費用対効果の検証など、課題が多いことから、今後も引き続き検討する。④国の情報通信白書においても、実用化はまだ先ではないかと捉えており、他自治体における活用状況などの情報収集に当たっているが、大きな進展は見受けられない。

【その他の質問項目】

- 市道整備計画と補修方法について
- eスポーツ活用方針と人材育成について



西川 英伸 議員
(新国会)

